

(特非) 野外教育学修センター魚沼伝習館

地域資源の利活用による自然環境の維持と持続可能な仕組みの形成と構築

イベントの 延べ参加者数	296 人
植生調査で 確認した種	401 種
活動の全体目標 に対する達成度	80%



山林の下草刈り

◆成果と工夫したポイント

●成果

今年度より、正式に2名が新規就農で集落の住民となった。また、地域おこし協力隊2名が集落の活性化に携わっている。また、今年度の活動に296人が山林や田畑の改修、その他環境教育活動に参加していただいた。

●工夫

人手不足及び、後継者不足を解決するための一助として、地域おこし協力隊を導入し、農林業の研修を行った。

課 題

過年度の活動で、集落の地域資源についての調査を進めることができたが、まだ資源化するだけの量を確保できずにいる。また、活動に対する人手不足も毎年の課題である。

目 標

昨年まで行った活動で、経済資源化の量的把握が進んだため、実際に資源を経済化する施策と自立するための量的拡大の調査、整備活動を促進する。それに伴い、昨年より始めた販売促進活動についても継続する。

活動内容

植生調査を4月から10月までのうち計6回実施した結果、401種の植物を確認した。

また、山林整備や田畑の改修を定期的に行っていると、放置されていた田んぼを5、6カ所を発見した。また、それぞれ田んぼ50a、畑15aを改修することができ、昨年度改修した田畑を使用して試験栽培もおこなうことができた。

販売先の確保や人手の確保に向けた情報発信や、関連する研修を実施した。



60年ほど放置されていた山林

達成できなかったこと

山林が長年放置されていたため、ツタが絡まり合い、木々が根元から地面に寝ており、作業の妨げとなり、刈払い機を用いても、予定していた面積の改修を行うことができなかった。

今後の展望

引き続き山林・田畑の改修や、農林産物の生産と販売、人材育成として環境学習の普及を目指し活動する。